

製品名: ERK 2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10595**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	48kDa

抗原情報

遺伝子名	MAPK1
別名	MAPK1; ERK2; PRKM1; PRKM2; Mitogen-activated protein kinase 1; MAP kinase 1; MAPK 1; ERT1; Extracellular signal-regulated kinase 2; ERK-2; MAP kinase isoform p42; p42-MAPK; Mitogen-activated protein kinase 2; MAP kinase 2; MAPK 2
遺伝子 ID	5594.0
SwissProt ID	P28482
免疫原	抗血清はヒト p42 MAPK 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 136-185

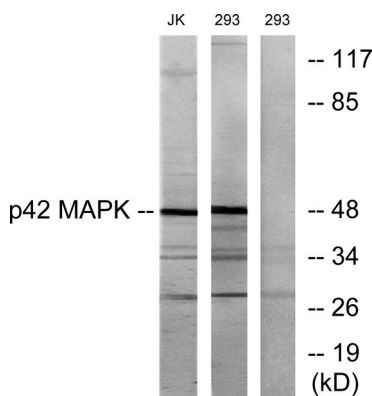
背景

この遺伝子は MAP キナーゼファミリーのメンバーをコードしています。MAP キナーゼは細胞外シグナル制御キナーゼ (ERK) としても知られ、複数の生化学的シグナルの統合点として機能し、増殖、分化、転写制御、発達など、様々な細胞プロセスに関与しています。このキナーゼの活性化には、上流のキナーゼによるリン酸化が必要です。活性化されると、このキナーゼは刺激を受けた細胞の核に移行し、そこで核内の標的をリン酸化します。ある研究では、このタンパク質がキナーゼ活性とは独立して転写抑制因子として機能することも示唆されています。このタンパク質は、メカニズム的に異なる機能を果たす能力に基づき、ムーンライティングタンパク質として同定されています。同じタンパク質をコードするが UTR が異なる 2 つの選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。触媒活性: ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。ドメイン: TXY モチーフには、リン酸化によって MAP キナーゼが活性化されるスレオニンおよびチロシン残基が含まれています。酵素調節: インスリンおよび NGF に反応してチロシンおよびスレオニンがリン酸化されることによって活性化されます。活性には両方のリン酸化が必要です。機能: 分化細胞における ELK1 などの多数の転写因子をリン酸化することにより、減数分裂、有糸分裂、および有糸分裂後機能の開始と調節の両方に関与します。EIF4EBP1 をリン酸化します。翻訳の開始に必要です。微小管関連タンパク質 2 (MAP2) をリン酸化します。SPZ1 をリン酸化します (類似性による)。熱ショック因子タンパク質 4 (HSF4) および ARHGEF2 をリン酸化します。オンライン情報: 細胞外シグナル調節キナーゼへの進入, PTM: Thr-185 および Tyr-187 が二重にリン酸化され、酵素を活性化します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。類似性: タンパク質キナーゼスーパーファミリーに属します。CMGC Ser/Thr タンパク質キナーゼファミリー。MAP キナーゼサブファミリー。類似性: 1 つのタンパク質キナーゼドメインを含みます。サブユニット: MORG1 と相互作用します (類似性による)。SH3 ドメインを介して HIV-1 Nef に結合します。この相互作用は、チロシンキナーゼ活性を阻害します。基質である HSF4 および ARHGEF2 と相互作用します。NISCH と相互作用します。

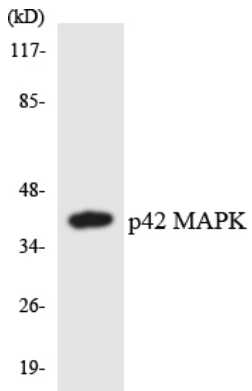
研究分野

血管新生の制御、微小管の制御、アクチンダイナミクスの制御、幹細胞経路、T細胞受容体、細胞増殖、インスリン受容体、Toll様、MAPK、ERK 増殖、MAPKG タンパク質、ErbB/HER、B細胞抗原、PI3K/Akt、mTOR

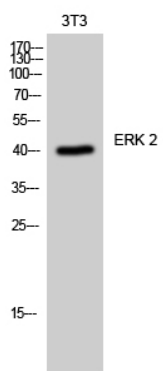
画像データ



p42 MAPK 抗体を用いた Jurkat 細胞および 293 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



p42 MAPK 抗体を使用した HUVEC 細胞からの溶解物のウェスタンブロット分析。



1: 2000 希釈の ERK2 ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析